

不確実性とリスク

企業家とは変化を察し、変化に対応し、変化を機会とする。これが企業家の定義です。

企業家の責務は「創造的破壊」と「創造的模倣」です。企業家の意志決定の本質は「不確実性」にある。気質でなく行動です。基礎となるのは勘でなく、原理であり「方法論」です。先進分野にあつては成功の

確率より、生き残る確立がかなり小さいものです。

企業家は、創造のため秩序を破壊、解体し模倣する者です。生産性が低く成果の乏しい分野から、生産性が高く成果の大きい分野に資源を動かす最適化に責任があります。

失敗のリスクは当然あります。しかし、多少なりとも成功すれば「創造的」の成功はいかなるリスクを相殺しても余りある。したがって、単なる「最適化」よりもはるかにリスクが小さいというべきなのです。

コアと考える経営資源を内部に持つか、外部から使うかの経営。視点として常に内部のヒト・モノ・カネに固執するのではなく、競争力強化の観点から外部のリソース(資源)を合理的な判断で活用することが求められます。すなわち「持つ経営」や「リース経営」から「使う経営」。一人当たり生産性・成長の

劇的変化です。その際、外部の資源を使うため必ず抑えるべきポイントに次の三点があります。

- (1) 目的の明確化
 - (2) 実現方法
 - (3) 管理サイクル
- リスクを伴うのは、企業家の多くが自分のしていることを理解していないことが多いことです。
- 目的がなんであれ、既存の資源を組み合わせ価値と満足を創造し社会に貢献する。つまり「方法論」と「志」を持たないリスクです。

兆候について

時代は幸いにも？、内外で革命的な変化が起きています。

- (1) 予期せぬ出来事
- (2) ギャップの存在
- (3) ニーズの存在
- (4) 産業構造の変化
- (5) 人口構造の変化
- (6) 認識の変化、考え感じ方の変化。
- (7) 新しい知識の出現。

回りで起きている世紀の歴史的变化はすべて、機会であります。

面白い時代です、企業家として利用しない手はありません。

変化と兆候に何となく気

がついても、目標以上の成果を上げても会議では、問題が起きた分野に関心が集中し、長時間にわたる場合が多いものです。時間を貴重な資源として認識してない証拠。スピードが命、成果と時間は比例しません。行動です。事件は「現場」で起きています。

予期せぬ変化や想定外は視野や知識、理解の欠如を証明する「兆候」です。又は、新たな次元や分野の機会と、成功の「兆候」か。そして注意を払わないと、必ず誰かが現れ、見事に利益をさらっていくものです。

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
 2012年10月15日 (月) NO. 273
 地域から明るい未来を作ろう

変わらぬ経営責任

情報はすべて回りにあります。改善の基本を誰かが教えてくれるものではない。

自分の問題は、内部情報が明確に教えてくれています。

利益を出すため手段を分析すべきです。

単純化すれば入りを計るか出を制するしかない。

このためには自社から情報を学び支配管理し、将来展望に活用していない場合が多いです。

改善しないのは、存続のための利益、将来からの会計処理が考えられていません。

負債や借入の返済は、利益か

らしかできません。費用ではありません。

縮むデフレ時代は、コストカットしか資源はありません。

なぜ利益が出ないのでしょうか。責

任は外部にあるのではない。すべて自らに戻ってきます。変革の時代、原則は共通です。基本的な考えが問われます。何があつても大きく変化しなければならぬ。

責任は当事務所にもあります。

変革は仕事です。

